

医療安全管理学

単位数：1単位(15時間)

責任者：萩原 三千男
学年・学期：第1学年・前期

◆一般目標(GIO)

医療現場では様々な危険性と隣り合わせで業務が遂行されていることを理解し、危険を回避し安全性を確保するための考え方を学ぶ。特に「人間は間違える」ことを理解し、そのことを前提にして実際に発生した事象をもとに再発防止対策とそれを遂行する基本的なスキルを学ぶ。また、患者中心の医療を展開するうえで重要な患者接遇と、適切な検査を実施するための検体採取について学び、医療安全管理の重要性を総合的に理解する。

◆到達目標(SBOs)

1. 医療現場に存在する危険性について説明できる。
2. 間違いを生じやすい認知特性について説明できる。
3. 間違い防止のための道具・環境の改善要点について説明できる。
4. 患者接遇および検体採取について説明できる。
5. TeamSTEPSとSBARについて説明できる。
6. 院内感染の具体的な対策が説明できる。
7. 情報漏洩の危険性とその対策について説明できる。
8. 業務上発生した問題の事例解析法が説明できる。
9. 臨床現場における状況判断とコミュニケーションの重要性が説明できる。

◆学習方法

学生は、上記目標が達成できるように、自分の理解力を絶えず確認しながら授業に積極的に参加する。授業方法は、毎時間のテーマに沿ったワークショップを行い、授業テーマを実感しながら講義内容を着実に理解する方式とする。基本的には少人数のグループ単位で自らの意見を出し合い、グループごとにまとめた意見を発表し討議する授業とする。この方式は、授業テーマを学生自らの発想で表現し、講師が助言を与えながら学生の理解を高める方式のため、学生自らの積極性が授業内容の理解度に直結するように授業が展開する。

◆評価方法

選択式の総括試験により評価する。ただし、授業態度・出席状況を重要視する。

◆教科書

新版臨床検査学講座 『医療安全管理学』 医歯薬出版(株)

◆教員紹介

担当教員は病院での勤務経験に基づいて、臨床検査技師養成に向けた授業を展開する。

◆講義内容

回数	項目	講義内容	担当
1	医療安全	安全とは何か、医療現場の危険性	萩原
2	ヒューマンエラー	人間の認知特性をふまえた対策	〃
3	コミュニケーション	情報伝達、意思疎通のむずかしさ	〃
4	患者接遇・検査説明	医療と患者心理、検査内容の説明	〃
5	検体採取	鼻腔・咽頭からの検体採取、採血、リスク回避	〃
6	危険予知	危険を見つける、事例から学ぶ	〃
7	院内感染対策	感染経路の遮断、手指衛生、標準防止策	〃
8	安全構築の中間発表	医療安全を構築するための工夫、進捗確認	〃
9	情報漏洩	情報漏洩の危機、医療情報の管理と保護	〃
10	医療安全のまとめ	人間は間違えることを前提とした作業環境	〃

◆ワークショップ

回数	項目	講義内容	担当
1	医療安全	ヒューマンエラーを見越した医療安全の構築	萩原
2	コミュニケーション	良好なコミュニケーションで安全向上	〃
3	検体採取・危険予知	リスクの存在を認識し安全確保に繋げる	〃
4	院内感染対策	院内感染の防止および対策	〃
5	まとめと発表	医療安全構築シートまとめ、最終発表	〃

◆講義の特徴

人の命を預かる医療現場は基本的な作業手順はあるものの、多くの特殊事例があり、また患者ごとの対応も異なるため複雑を極めている。医療は「人」に依存した組織体で診療・治療には多職種が関わるため、複雑な業務を安全に行うための工夫が必要とされ様々な対策も取られている。臨床の現場で何がどのように行われているのか、どこに危険性が潜んでいるのか、を具体的に示すことによって学生の理解が深まることに重きをおく。実際に現場で発生した事故やインシデントとその対策を示し、医療現場の危険性の理解を促す。

また、ある局面において決断を下すのは人であるが、所詮「人間は間違える」ことから医療の安全を確保するために日々医療現場が試行錯誤しつつ安全文化を確立させる努力をしていることを実感できるような講義の構成となっている。